

白井市総合教育会議録

○会議日程

令和6年3月5日（火）

白井市役所東庁舎3階会議室302・303

1. 開会
 2. 市長あいさつ
 3. 議題 白井市第3次教育大綱策定方針（案）について
 4. 閉会
-

○出席委員等

教育長	井上 功
教育委員	齊藤 豊
教育委員	中里 敏康
教育委員	松田 加奈子
教育委員	久保 利枝

○出席職員

市長	笠井 喜久雄
企画政策課長	村越 貴之
企画政策課	松田 浩明
教育部長	宗政 隆雄
教育部参事	榛沢 宏一
教育総務課長	落合 一矢
生涯学習課長	山本 敏行
文化センター長	高花 宏行
書記	中村 妃佐
書記	鈴木 美菜

午後3時00分 開 会

○事務局 ただいまより令和5年度第2回白井市総合教育会議を開催させていただきます。

本日、議事進行を務めさせていただきます企画政策課の松田と申します。よろしくお願ひいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的として市長が設置する会議となります。

本日の議題は、白井市第3次教育大綱策定方針（案）についてとなります。

それでは、笠井市長よろしくお願ひいたします。

○笠井市長 皆さん、こんにちは。雨の中、この会議に出席をしていただきまして誠にありがとうございます

ざいます。

また、皆様には日頃から教育や社会教育全般にわたりまして、いろいろ御助言、また実践をしていただき、心から感謝をいたします。ごつくばらんに自分の考えている教育に対する思い、生涯学習に対する思いについて、皆さんの忌憚のない御意見をお聞きしながら進めさせていただきたいと思いません。

今日はパワーポイントを作らせていただきました。

今日の内容ですが、まず今、議会で予算審議をやっているわけですが、皆さんも恐らく教育委員会でも聞いていると思うのですが、予算について少し報告、説明をさせていただきます。

令和6年度の当初予算、キャッチコピーが「未来につなぐ安全・安心予算」ということで、これから災害、そして交通事故、いろいろなことが想定されます。当然、犯罪もあります。こういうものに対応した予算をつくっていかうということで、このようなキャッチコピーにさせていただきました。

次、お願いします。これが当初予算の編成に当たって、自分が各課に指示した基本方針、全部で四つあります。

一つが、後期基本計画の事業の完遂を見据えた着実な実施ということで、今の第5次基本構想、後期基本計画が令和7年度で終わります。あと2年しかないので、計画に載せた事業を着実にまずは進めること。これは議会の議決を頂いた計画ですので、この事業について、載っているものについては進めてほしいということをもまず1番に掲げています。

二つ目が、市民の生活の安全・安心の確保であります。特に、子供たちの通学路の安全対策を含めて、この部分に力を入れてほしいと。一番怖いのは、今年の元旦にあった能登半島のような地震。これは毎年言われているのですが、首都直下型、南海トラフ地震が高い確率で来ると言われています。ここに来て千葉の東方沖の地震が頻繁に起きていますので、この備えというか準備を予算に着実に入れてほしいということを示してあります。

三つ目が、子供の成長のための施策の推進ということで、私の公約の中に、一番は子育て教育のまちというのが公約の一丁目一番地であります。まちを継続するため、まちを元気にするためには、子供たちがこの市内でわいわいとにぎやかに、そういう環境づくりが必要となってきます。

つい最近の新聞を見ると、子供の出生率、令和4年が80万人を切って、さらに令和5年が75万人ということで、5万人これで切っているわけです。

うちの市はどうかということで、データを少し言わせていただきますと、令和2年が314人、令和3年が284人、令和4年が306人、令和5年の1月末ですが229人ということで、少しずつ減ってきているのが実態です。国と同様です。ただ、国よりもそんなに減り幅は少ない。今229人ですから、恐らく3月までになりますと、250は超えると思います。しかし、子供の数は着実に減っていくのが実態であります。

もっとデータを言うと、県内の年少人口、これは15歳未満ですが、人口比率でいくと、今、県内で白井市は上位4番目です。1番が印西市、人口比率でいうと16.4%、流山市が16%、3番目が袖ヶ浦市で13.7%。4位に白井市が13.6%ということで、これは令和3年のデータなのですが、まだ県内では、年少人口、14歳までの子供の数が、県内では人口比はそんなに低くない。その結果、平均年齢という、白井市民全体の年齢というのは46歳、45歳ぐらいかな。これも悪い数字ではありません。

ただ、これから一気に高齢化が加速しますので、この辺、少子化と高齢化が大きな課題、そのために3番目として、子供の成長のための施策の推進ということを掲げていきます。

四つ目が、将来を見据えた行財政運営の実現であります。事業、政策をやるには、必ず予算、お金が必要ですので、無理して今ある予算を全部使い切ると継続ができませんから、ちゃんと計画どおり、お金を時代の要請に合った使い方をしてほしいということで、この四つを基本方針に、各幹部、部長、課長に説明をして令和6年度予算編成を行っています。その審議が今始まっているところであります。

次、お願いします。皆さんにとって一番関心ある子供の部分です。6年度の当初予算では、子供の成長のための施策の推進ということで、三つ目に掲げたものを少しピックアップしました。

まず学習支援事業。これは塾に通っている子供たち、勉強したいけど、なかなか経済的に難しいという子供たちに学習塾の支援を行っています。これを拡充しました。対象が25人、期間が10か月間。収入がなくて困っているという家族を対象にこういう事業を進めています。

次が、学校給食費の改定分の公費負担。皆さん知っていると思うのですが、これと第三子無償化補助金を行っています。右に行きますと、コミュニティ・スクール、学校部活動地域展開事業、新しく、子どもの居場所づくり支援事業ということで、前回皆さんと居場所についていろいろな議論をしたと思うのですが、これについても、今回新しく予算付けをさせていただきました。

具体的に言いますと、子ども食堂とか学習支援とか、いろいろなものを配給している団体に対して助成を行う事業であります。

そのほか、障害者の方の地域展開、障害者のいる保護者や家族に対して、地域で応援する事業に対しても補助事業を今年新たに展開をいたしました。子供というのは、障害がある方もいますので、そういう方に対しても、地域住民が主体的に活動する事業に対して応援をしていきます。

さらに言うと、スクールバス。これは令和6年度から本格的に一小と二小に3年間導入を決定しています。こういうことが主に子供の成長のための施策ということで事業を進めているところであります。

次、お願いします。今回、教育大綱という話です。教育大綱というのは、地方公共団体の長と教育委員会で構成する総合教育会議で協議し、この場で協議して、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針などを定める一番大事なものです。教育委員会に教育振興計画がありますが、同じような感じですが、その上にあるものがこの教育大綱ということで理解していただきたいと思います。市長が考える教育ビジョン的なものです。これは法律に位置づけがありまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に位置づけられています。この計画がもう少しで終わるということです。

次、お願いします。今の計画、皆さん見たことあると思うのですが、こういう構成になっています。オール白井で高める「しろいの教育」。

具体的に言いますと、関係機関、学校、家庭、教育委員会、地域、市役所、こういう人たちがそれぞれの強み、役割分担の中で子供たちの教育を支えていく、こういう基本理念になっています。

その中で基本方針が四つあります。一つは学校教育です。育てます。未来を生き抜く力。二つ目の方針が家庭教育。これが、支えます。子どもの笑顔。三つ目の方針が社会教育で、結びます。人と地域と学び。ということで、私はどちらかというと、この3番目の社会教育がこれから大事なのだと思っています。

というのは、人生100年時代です。100年生きるためには当然、健康も大事ですが、生きがいとか仲間づくり、社会参加というのはこれから大事になってくると思っています。私の中では、この社会教育の部分は、市長として積極的に関わるものだなと。あとの学校教育というのは、当然、政治家が学校教育に物事をいろいろ入っていくのはいけないと思っていますので、その辺の役割分担から行きますと、教育方針の3番目、社会教育。

そして、四つ目の生涯学習。応援します。みんなの学びということで、人生100年時代で、生涯現役で学ぶ環境づくりを整備していきたいと思っています。その代表的な事業が市民大学であったり、市民活動であったり、地域活動だと思っていますので、この辺が今の大纲の中身です。

これを計画期間が5年間で、令和3年4月1日から令和8年3月31日までで終えますので、新しく変えていかなければいけないということです。変えるに当たって、今回皆様に説明をして意見をもらおうと思っているのは、こういう内容です。お願いします。

これが大纲の位置づけですが、国の教育基本法、法律に基づいて、国は教育振興基本計画を策定いたします。それを参酌して白井市の教育大纲、もっと言うと白井市総合計画があります。これは、まちづくりの一番の上位計画になります。あらゆる計画がこれを受けて、それぞれの教育や福祉や環境分野に分かれていく、そういう基本の計画がありますので、この整合性を図るというふうにしています。さらに言うと、この白井市の教育大纲が、教育委員会がつくっています白井市の教育振興基本計画に整合を取るということです。この部分は、当然市長として、まちづくりで教育や福祉や環境を考えていくわけで、これとの整合を取りたいという話です。

次、お願いします。具体的に今回、皆さんに理解、納得していただきたいのが、子供の視点を強化したいと思っています。要するに子供の当事者の意見です。今までの計画はどちらかというと大人目線、大人が中心になって、こういう環境をつくっていききたいというのがありました。ですが、これからの計画というのは、今、白井に住んでいる児童や生徒、子供たちの視点を地域づくり、まちづくりに入れていきたいと思っていますので、一番は、先ほど言いましたが、第6次の総合計画、これを担当課に子供の視点をに入れてほしいと。子供たちでいろいろ議論をして、こういうものがあればいいね、こういうものを整備してほしい、こういうような環境をつくってほしいということを入れていこうというふうに指示をしています。

白井市は土壌があります。スクールサミット。これはSDGsについて、いろいろ子供たちが考えて、毎年、大人顔負けの立派な提案があります。こういうものもちゃんと計画に位置づけをして取り組んでいきたいという思いがあります。

ですから、今回は、これは総合計画のほうの方針にもあるのですが、子供の育ちや学びを支え、市民が生涯にわたり活動できるまちを実現するための課題に対応するというので、子供の教育、人生100年、これを入れていきます。

二つ目が一番大事で、魅力あふれる白井を次世代に残していくため、子供の声を政策に反映すること、ここが今回、注目をしていただきたい点で、大人の意見ではありません。子供が自分たちで、こういうように将来このまちがなればいいね、こういうことをしてほしいねということを入れていきたいと思っています。

さらに言いますと、持続可能で豊かな白井市を実現するためのSDGsやDX。DXは、デジタルトランスフォーメーションはやらなくてはいけないし、2030年のSDGsも推進の取組をしなけ

ればいけませんので、こういうことをやっていきたいと。これを皆さんに発表して御意見を頂きたいなと思っています。

次、お願いします。具体的なスケジュールですね。これがスケジュールになります。策定の流れ。まず4月に、次期教育振興基本計画策定に向けた小中学校児童・生徒のアンケートを教育委員会でやるんですよね。

5月には、第6次の計画策定に当たっての小中高を対象としたワークショップ、これを子供たちでやって、いろいろな意見を喧々諤々というのをやってほしいと思っています。それで、アンケートとワークショップで出た意見を教育大綱素案に入れていきたい。例えば、本屋を作ってほしいとか、イオンを作ってほしいとか、いろいろなことがあると思います。だけれども、その中でも必要なものについては、そういうものも考えていかななくてはいけないと思っています。

最終的には、素案ができたなら、8月の行政経営戦略会議。これは役所の市長、副市長、教育長、部長も入れた会議で、素案について検討して、決定をして、それを基にパブリックコメント。これは広く市民にパブリックコメントを聞いて、その素案に対しての御意見をもらう、こういう流れになっています。

最終的には、このスケジュールでは、12月ぐらいに総合教育会議に諮って計画を策定したいと思っています。結構スケジュール的にはタイトなのですが、こういうような流れでやっていきたいなと思っています。自分の中で、計画をつくるのが目的ではないと思っているので、あくまでも中身にこだわっていききたい、どういうものを盛り込んでいくのか、どういうものが必要なのかを議論をしていきたいなと思っています。

次、お願いします。これを見てください。「白井をもっと豊かに もっと子育て教育のまちに」ということで、白井って6万3,000人弱の市民しかいないのですけれども、いろいろな人が出ているのですよね。

これを見ていただくと、レーサー、白井高校の小林君という選手がいて、あとプロゴルファーの仲宗根さん、あとこれは空手で有名な3姉妹とか、あとはサッカーのプロの選手とか、白井市の芸能人、ホリくんとか新浜レオン君もいます。オリンピック選手の安藤さんという選手がいるのですが、この方もパリオリンピックを目指している。新浜レオンと、野球で言うと、二小の池田君という選手が都市対抗に出たのですよね。本当にこのまちでいろいろな人が活躍している。

ですから、自分の中での教育って一番考えたときに、ゴールは、子供たちの可能性を応援できればいいなと。その応援というのは何かというと、教育だけではないのですよね。スポーツだけでもないし、その人なりに自分の可能性を地域やまちで応援できるような教育環境をつくるのが、最終的には市長としての役割なのかなと。教育の中身は、教育レベルを上げるということは、教育委員会の先生方や教育長の職務ですけれども、自分は子供の可能性を伸ばしてあげる。このことが一番いいのかなということで、最後はこういう写真を皆さんに見ていただきました。本当にいろんな人が活躍をしている。

ただ、この人たちだけがスポットを浴びるわけではありません。それなりにいろいろなところで自分らしく生きている人、子供たちもいますし、そういう人たちもいますから、そういう人たちを先ほどありましたように、いろいろな関係者が認めて応援するような地域社会とまちをつくっていききたいと思っています。ということで、大綱の進め方、中身についてお話をさせていただきました。

今回大綱の進め方、中身について、皆さんに忌憚のない御意見を頂きたいと思います。

子供たちに関心を持ったり、いろいろな人に関わったり、応援するようなことをやっていきたいなど。松田委員みたいにいろいろな企画に参加をしながら、常に子供たちのために、ああいうような、いいですね、地域ってすごく温かいですよね。ああいう地域社会をどんどんつくっていききたいなと思っています。どうぞ忌憚のない意見を。

○松田委員 最後の市長の子供の可能性を地域やまちで支えていくというのは、私もものすごくいいなというか、支えていききたいなと思っています。

先ほどもあったスクールサミット、私も2年見させていただいたのですけれども、むちゃぶりもありますけれども、子供たちあんなに考えているんだなど。問題点があったから、もっとこうしたいというすごく前向きな意見を持っているので、そこに大人も答えなきゃいけないと2年間見て思いましたので、何かしら子供たちの思いをどこかで実現していける機会があればいいなと思います。

○笠井市長 子供たちが地域やまちに対して意見を言える環境をつくっていききたいなど。あとは、子供たちも実際、地域に入って行って応援できるような環境をつくっていききたいのですよね、ただ言うだけではなくて。例えば、大山口地区みたいなボランティアがあったり、いろいろな地域イベントに子供たちが自主的に参加して、体験をしてみて、地域のよさを知るような相互関係をつくっていききたいですね。ただ言うだけでは、言うだけの大人になってしまうので。ありがとうございます。

○久保委員 ありがとうございます。私もお話を聞きながら、いろいろこれから楽しいことができていったらいいなと思いました。家庭だけでは体験できないこと、学校だけでは体験させられないことを地域が子供たちに体験させてあげる。体験させてあげるという言い方も変ですけれども、地域の力を借りて子供たちの体験の機会が増えれば、そういうものが自信になって、子供たちはどんどん、どんどん伸びていくのではないかなと思っています。

あとは、私の周りにも白井を盛り上げたいという人が何人もいまして。それぞれ自分たちの中での活動なので、例えばPTAでスポーツ水鉄砲というのを一昨年ぐらいからしてしまして、学校対抗で、ルールをつくって、年2回ぐらい水鉄砲大会を開いていて、すごく盛り上がって。何回か回数を重ねたら、募集してすぐに定員がいっぱいになってしまうぐらい人気のスポーツ水鉄砲を企画している人たちがいたり。あとは、モルックというスポーツの選手の方がいて、白井をモルックのまちにしたいと言って、お一人なのです、今、モルック協会。白井モルック協会を立ち上げているのですけれども、1人ではちょっと動けないということで、でも子供たちにモルックを体験させたいなと思っています。何か子供たちにしてあげたいという大人がたくさんいるので、そういう人たちの力をうまく借りながら、市だけで進めていくのではなくて、地域の方に参加してもらいながら、いろいろなことができていくと楽しいなと考えます。

○笠井市長 ありがとうございます。そのとおりで、このまちって実は人材にも恵まれているのですよね。いろいろな人たちがこのまちで、地域で活動しているというのが、その結果ですね。

市民活動サポートセンターに登録している団体が90あるのです。すごいことですよ、90団体。当然、既存の自治会だとか地区社協とか、あとはPTAもそうですけれども、本当に頑張っている人たちがいて。ですから、ここはやっぱりうまくつなげていければいいと思うし、さらに言うと、人材のほかにも、自然、農地もあります。子供たちに食糧というものも分かるような、環境問題はやっていますから、食糧問題についても、何かそういう場を提供しながら、自分たちで自給自足できる

ようなこともいいのかなと考えてはいます。それも大人目線だから、子供たちが集まって、そういうことをやってみたいのであれば、大人として、そのつなぎをできればいいなと思っていて、いろんなフィールドがこのまちにはあります。そこをうまく使わない手はないなと。

○中里委員 子供たちの可能性を伸ばすというのは、すごくいいことだと思うのですが、今の子供たちって、結構、親目線のルールに乗った方向のものしか知らない。例えば、親が柔道、テニスをやっていれば、そちらに走ってしまうとかではなくて、いろいろなスポーツでも、芸術でも、職業でも、学校でそういう体験ができるというのをやっていただければ、まずは知らない、可能性が自分にあるかどうか分からない。だったら、いろいろなことを知って興味が湧いて、結局、興味がある好きなものというのは、やっぱり力が出るものであり、自信につながるものだと思うので、そういう機会が与えられる教育をしていただきたいなと思いました。

これは自分の話ですけども、多分、自分が小学校のときに、市の主催か何かでリーダーシップ研修という内容の、研修施設に宿泊をして、いろいろな地域のほかの市町村の小学生と話し合いをしてというようなことを体験できたなという記憶があります。白井市って、今そういう研修宿泊施設がないと思うので、予算の問題ですけども、そういう施設があれば、ほかの学校と、全員は無理ですけども、5年生の希望者10人ずつとか、ほかの学校と一緒に1泊過ごして、うちではこういう問題があるんだよ、うちの学校ではこういういいことがあるんだよ、という話し合いができる、触れ合いができる、そういう企画もいいのではないのかなと思いました。

○笠井市長 青少年相談員が通学合宿やっています。そういうイメージだと思う。ただ、どちらかというと、地域の子供たちの、それをもう少し幅を広げてということをやっています。富士センター使って、お風呂もらいに行ったり、非常に人気がある事業ですよ。確かに体験、経験というのは、どんどんやったほうがいい。

それと、前に言ったような話で、確かに日本というのは、例えばスポーツで言うと、野球だったら野球をずっとさせるんですよ。野球が駄目だって、例えばサッカーのいい人はいるし、外国は違う。いろいろなスポーツを味わって、いろいろな芸術も味わいながら、自分に合ったような環境を生み出すというのが外国で日本はどうしても一つになってしまう。だから、いろいろなメニューを用意しながら選択肢を増やしてあげて、可能性を残してあげたいですよ。自分だって、野球以外で、サッカーだったら、もっといい選手だったかもしれない。日本はどうしても真面目で、途中で辞めちゃうと、親がいろいろ言うんだよね。それは今の子には通用しないと思っています。ありがとうございます。

○齊藤委員 まずキャッチコピーの「未来につなぐ安全・安心予算」ということで、予算があるということは、そこに当てる原資がないと、なかなか予算は組めないと思います。前もこの会議の中でお話ししたと思いますが、今、白井市の人口6万何千と市長からもお話ありましたけど、これだけの広大な敷地の中で、国道が2本走っている。そういったところの付帯している土地をうまく活用して、いろいろな税収を図っていかないと、今はまだ人口が減ってきていませんが、これから先、人口が減ってきたときには、税収が減れば、当然何の科目に対しても予算をつけていかれなくなってしまうのです。ですので、前も話しましたが、今から本当にそういったことも考えていかないといけないと。

あと、白井の魅力ということですけども、私の子供もそうなのですけども、白井に戻ってきて仕事をするというのが、なかなか少ないと思います。ですので、白井の中で仕事ができる。今、教育

でスポーツの話出ましたけれども、野球やったら野球だ、サッカーだったらサッカーだというのがあ
るのですけれども、仕事についても、いろいろな仕事をやらないと分からないと思います。今、大人
たちもすぐ転職だとか、そういうのをやる時代なので、ずっと一つの会社にいるという時代ではない
と思うので、一つ、いろいろな選択肢がある、そういったまちをつくっていかないと、これからは自
分たちの子供たちもそこに住みつかないだろうし、よそからも来ないのではないかなと思ったところ
です。

15歳未満が県で4位ということなので、それにあぐらをかかずに、いろいろな施策をスクールサ
ミットでいろいろな案が子供たちから出されているわけですから、それを今度うまい具合に運用して
やっていかないと、これからの白井だけではないと思うのです。いろいろな自治体どこでもそうだと
思うのですけれども、人口減少していて、本当に厳しい自治体が多いと思うので、その辺は教育委員
会だけでなく、いろいろな施策を考えていく上では必要なのかなと思っています。

○笠井市長 ありがとうございます。私もそのとおりで、人口が伸びているところって流山とか印西
なのですよね。あとは、茨城で言うと、つくば市。これは何かというと、働く場所を確保して、企業
誘致をしていて、企業誘致をしたお金を子供たちに投資ができるということの好循環。ですから、今
年の4月に、組織編制を変えて企業誘致推進室があるのですけれども、これを自分の直轄にしたので
す。今後5年間ぐらいは、企業誘致を進めて、お金を確保する必要があるよねと。お金を確保した
ら、そのお金をサービスに転換して人口を呼んでいこうと思っています。企業誘致も、単に何でも来
ればいいのではなく、ある程度若い人たちに魅力のある企業に来ていただかないと、そこで働くこ
とはないですよ。

今、株価って4万円上がっていて、4万円の実感はないけれど、4万円上がっている株価というの
は、みんなITなのです。半導体。ですから、自分に見れば、企業さんにこの地域に来ていただ
きたいなと思っています。それで4月から組織を変えて、そういう企業を優先的に誘導しようと思っ
ている。今、対策を言ったように、いろいろな企業の人たち、一流企業の人と話をすると、印西があれ
だけ来るといことは、絶対白井もポテンシャル高いですよと言われたのです。それは都心からも近
い。もっと言うと、国道2本通っていますから。人気のある16号線と464号線。この2本がある
のに、もっともっと企業誘致できますよということで、実際そういう話はたくさん来ています。

ただ、皆さんの中でも、白井って全部周りを企業体にしていいかというところもある。自分も思っ
ているこのまちのよさというのが、緑もあるし、農地もある。だから、全て企業ではなくて、農業を
したい人はちゃんと守ってあげる。ちゃんと環境整備をした、今を維持したい。それで、どうしよ
うもない土地というか、使えない土地については、企業誘致を進めていこうとしている。実際、話は結
構来ていますし進んでいます。一つは、文化センター隣の電算センターですね。ほかにも電算センタ
ーの話があります。

印西が人気あるのは、企業さんが言っているのは、当然利便性もそうだけれども、電力需要が高
い。下総台地は停電に強い。同じですよ。印西にできて、うちにできないということはないのです。
ですから、これから本当にいろいろな企業さんを誘致しながら、働く場を確保して、そして、その人
たちに白井に住んでいただくという、定住につなげていくということを進めていきたいなと。

さらに言うと、成田空港が2029年で拡張される。今の倍の面積。そうすると、利用者が単純に
言うとは倍になる可能性がある。外国人や日本人がこの北総エリアを通過する可能性がある。だったら

停車してもらおうという発想もあるといいと思う。ただ、白井だけに停車するというのは難しいから、当然、沿線でタッグを組みながら、その辺バス会社が白井だけの領域ではなくて、印西や成田や佐倉を含めて魅力を発信して、外国人に、空港に行く前にちょっとここでお金を落としてもらって買ってもらえるような環境づくりをやっていきたいなと思っているのです。その可能性がある場所なので、そこをうまくやっていければやれると思うので、そうすると、また新しい白井が開く。だけれども、ベースは、何十年間つくってきた白井の歴史や文化というのを大事にしたいと思う。その上で新しいものを加えていくという発想をずっと言っている。

特に梨は、100年やっている。すごい歴史だよ。今から半世紀、また1世紀つくるって大変ではないですか。それはやっぱりやりたい人は守って環境を整備してあげる。だけれども、梨もできないし、農地もだめだ。そうなってくると、さっき言ったように外国人が入ってくるということは、ヤードも出てくるというわけですよ。ヤードでなくて、日本のいい企業さんに来ていただいて土地の利活用をしながら、雇用促進につなげていきたいと思っている。それが多分できるスタイル、独自のそういうようなことを目指していくし、だけれども大事なことは、今いる子供たちに対しては、このまちに魅力を感じて、大人になってもこのまちにまた帰ってくる、住んでもらう。こういうような環境が大事だと思います。

最後に教育長の話をお願いします。

○教育長 ありがとうございます。まず今日は企画政策課が全部やっていただいて、この資料も本当にとってもよくまとまって分かりやすく、よかったなと本当に思っています。

現行の総合計画には、子育てという言葉がキーワードになっているので、結局、子育てというと、保護者とか親向けなのです。親が暮らしやすい白井市というイメージなので、子供が学ぶという視点はあまり入っていないので、今回、大綱でその視点をはっきり入れていただけそうなので。今回の基本方針も、子供の成長のためのはっきり入っているし、これは今年のですけれども、次の部分でも、子供たちの育ちや学びや支えるとはっきり入って、もっと言うと、さっき市長が力強く言っていた子供の声を反映させる、もろ子供、子供、子供というふうにしているの、僕はとっても、大綱もそうだし、総合計画もそうだし、これから教育委員会がつくっていかなくてはいけない振興計画も、子供中心で行けそうなので、全部整合性が取れるので、やりがいがあるなという感じでうれしく思っています。

子供たちがこんな市にしたいという提案をいっぱい出して、それが自分の市で幾つか実現できたら、暮らしやすいと思います。自分の提案で出来ていったまちだったら、外に出ていこうかとなりづらいのではないかなと。せっかく自分たちでつくったので、ここで暮らしていこうかなと。もっと言うと、もっと提案すると、もっとできるかもしれないという。白井市、面白いかなとなるのではないかなと思うので、市長の子供の声という視点はすばらしいなと思うし、なかなかまだそんなにほかの市ではやっていないのではないかなと。なので、ぜひこれを進めていただけるとありがたいなと思っています。

さっき企画政策課を褒めましたけれども、齊藤委員もおっしゃっていたキャッチコピーって大事で、今回、「未来につなぐ安全・安心予算」。僕は流山が、「母になるなら、流山」という、あれは本当にすごいと思っています。普通だったら、子育てするなら流山とか、パッと考えたらそんなふうになるよね。「母になるなら、流山」という最高のキャッチコピーだなと思って。あれを越せば白井に

入ってくるのではないかなと思います。キャッチコピーの威力はすごいなと。

以上です。

○笠井市長 ありがとうございます。自分もやっていて、当事者の意見ってなかなか聞けなかったなと思っているのですよね。どうしても大人目線で、支援も、どちらかという保護者に対しての支援ということで。例えば医療費助成というのは、子供というよりも保護者に対しての経済負担の軽減なわけですよね。子供たちは、例えば公園でキャッチボールがしたい、サッカー遊びがしたい。だけど、公園のルールなので、それができない。子供たちにしてみれば、やりたいのです。そういうようなことも、今あるものをもっと自分たちが使いやすいように変えてほしいというのは、一つの意見だと思うので。大人はみんな危ない、危ない。何かあった場合、保護者からクレームが来てしまうとかあるけれど、そこはそこで、また今度は発想を変えるべきだと思っています。

○教育長 選挙権のこともあるのではないですか。子供は選挙権が今はないから。

○笠井市長 それはよく高齢者が、選挙を見ていると、大体選挙に行くのは高齢者がほとんど。若い18歳からの人は30%しか行かない。7割は棄権してしまうのです。だから、どうしても政治家は若い人たちの声を無視してしまう。子供たちの意見を聞いて取り入れて、このまちに住んでいただく。その延長線上で自分が思っているのは、人材の確保と人材の育成をしたいのですよね。

何を言いたいかという、住んでいる人が、市役所に自分の思いを持った子が役所に入ってくればいいわけではないですか。一番の資源ではないですか。自分のまちを知っているって。その人たちに役所に来てもらう。さらにもっと言うと、職員よりも政治家になってみたい、市議会議員になりたい。そういうふうになってくれば楽しいと思うのです。

実際、社会科の特別授業をやっていると、いい意見を言うと、君、将来市長になればと言うのです。いいですねなんて。そうやって可能性というか、そういうことができればいいなと思っています。まずは住んでいる人を大事にしなければ、外部から人を呼べないと思うのですよね。住んでいる人たちにいかに満足感を与えながら、いいということをやってもらう。それから人を呼び込みたいなと思っていますけれども。

流山の市長って5期ぐらいやっているのですよ。井崎さんね。あの人は初めから民間企業でマーケティングの世界にいて、だからある程度マーケティングを調べて、流山の将来を考えて、若い人に来てもらいその結果、今、出生率の1番は流山です。2位が印西。流山はちゃんとした戦略を持ってやったのですよね。そういうふうに、これからは戦略がないと選ばれないですよ。だって日本の人口は今2018年をピークに減っているわけですから。今来ているのは、ただ移動しているだけだものね。

私のところにも毎月、人口の住民票の結果が来るのです。少しずつ減っているというのは、単純に出生数なのです。社会動態は変わっていません。転入も転出もそんなに変わっていません。むしろ転入は増えているという。その結果、世帯数は増えているのです。人口は減っているのに、世帯数は増えているということは何かというと、一人暮らしの人たちが来ているのだけれども、出ていく人もいるという。だから、社会動態は変わっていません。自然減なのです。

大体600人か700人ぐらいが毎年亡くなっているのです。子供の数が200、300人だと、その差が人口減少に行ってしまう。増えているのはもう一つあって、外国人。外国人が増えているという実態がある。こういう現状を分析しながら、どこにターゲットを当てて、人を増やしていくか。2

0代30代の女性が転出してしまうのだよね。これ結構あります。これは結婚だとか、あとは会社勤めになって、どこかに行ってしまうのですよね。この辺の人たちのつなぎ止めをやっていかないと、結婚して帰ってくるような仕組みをつくっていかないといけないなど。

でも、そうは言いながら、さっき言ったように、可能性はたくさんあるし、課題もある程度見えてきているので、そこをちゃんと次の計画なり教育大綱に順応してやっていければ楽しいのかなと。

松田委員、地域活動をやっている、何かこういうのあったらいいねというのがあれば。地域活動、白井は盛んですよね。

○松田委員 盛んですね、すごく。私なんかよりも年配の方がすごく頑張っていて、本当に富士の辺りは、お祭りがあつたり、夏祭りもいっぱいあって、でも本当に動いている方は70代、80代の方も元気にやっていますのに、なかなか、このままだと多分できなくなってしまうのではないかなという不安があるぐらいなので、なくなってほしくないし、続けていくためには、子供たちにもやってほしいなど。

○笠井市長 70代80代の方というのは、生きがいなのですよね。社会参加という、この教育の会議というのは、どちらかというと生涯学習の視点もあるので、そういう面では、70代80代だから引退ではなくて、やれる間はやってよということで、その気にさせるのが一番いいのだよね。

このまちのよさというのは、いろいろな人たちが活動していて、いろいろな面倒を見てくれる。学校に関しても、さっき言ったように、ボランティアに積極的に参加する子供たちがいるのです。大山口も、白井高校もボランティアをやっています。結構開かれた学校づくりをやっている。

まちづくり協議会が白井市にはあるじゃないですか。まち協は今、二小と三小と大山口小ですけども、一番まち協の会議に行くと感動するのが、校長、教頭が必ず来ているのです。日曜日とか大変ですよね。でも、大変ですねと話をする、学校が地域にいろいろなことをお願いしているし、地域ともいろいろな意見交換もできるし、助かりますと。教育長が考えているのがコミュニティ・スクールですよね。あれが始まっているのだよね、実際ね。これって財産ですよね。1からつくるの大変ですものね。自分のものは使えても、学校の先生方が地域とつながっていくといいなと思っていますので。また意欲がある先生いっぱいいます。ありがたい。

○松田企画政策課副主幹 先ほど中里委員さんのお話で、青少年相談員さんがやっている通学合宿の一貫で、長楽寺さんでも、ご協力いただいてありがとうございました。

○笠井市長 今は、隣近所の関係が結構ぎくしゃくしてしまうケースが多いではないですか。だけれども、子供を通して、そういう交流って大事ですよね。

○中里委員 先ほど、三小地域、富士地区の祭りごとが盛んという話から、重複しますが、結局、老人と子供は楽しめる、でも、その後継が生まれないというのは、働く親、中年層の人たちは、どうしても今、市外、都内に行ってしまうから、その辺も、白井市内に働く場所が増えれば、もっと手伝ったり、跡を継いだりしやすいのかなと。消防もやっていますが、結局は、平日有事の際に出られるのは、農家や地元企業に勤めている人間で、7割、8割は都内族になってしまっているから、市内という拠点が欲しいですね。

○笠井市長 おっしゃるとおりで、今、白井工業団地って300社ぐらい入っていて、従業員が7,500人位いて、1割か2割しか白井市民ではないんですよね。外部から入ってきて、あの業態って、若い人がなかなか働かないんです。だから、やっぱり若い人たちとかそういった人たちに働く

場を提供したいのです。企業誘致も進めたいし、今株価が上がっているような企業さんに来てほしいなと思っています。

一方で、リモートワークって結構盛んになってきたではないですか。今の若い人たちって価値観があって、自然があったり、土いじりしてみたいという方がいると思うので、そういう人の呼び込みにも、これからなっていくのではないかなと。そういう価値観を持つ人、要するに自然の中である程度過ごしてみたいという人たちにも、都心から近いし、たまには東京に行っても近いですからね。そういう価値観を持つ人の政策というのもやっていきたいなと思っています。

○齊藤委員 今、市長がおっしゃっていた都内に近いというのは、鉄道網が敷かれて、先ほどおっしゃっていた成田空港、空港と都内とというのは一つのキーワードになっているのかなと。印西市もそうですけれども、白井市も、そういうところがキーワードになって。せっかく鉄道が通っているのだから、そこを通過させずに、1回途中下車させて、何かやらせようという、そこに宿泊施設か何かがあれば泊まってくれるのではないかな。例えば、買い物だったら、コストコではないですけども大手商業施設があれば、そういうのができてくれば、また、そこに勤める子供たちも出てくるだろうし、白井市は本当にポテンシャルがあると思うのです。そういうのも開発しつつ、やはり元にある畑や田んぼ、梨畑、そういうのも大切にすれば、それが一つの観光になるのかなと。いろいろなことを考えられるのが白井市なのかなと思いますね。やたらめったら開発してしまうと何もなくなってしまうので、敷地は限りなく広いわけではないので、住宅も建てるのもいいのですが、人口誘致もいいですけども、やはり企業誘致が一番。企業の課ができたのですよね。一市民としてそういうのをどんどん応援したいと思います。

○笠井市長 今言ったように、白井だけで外国人を呼ぶということは不可能に近い。ですから、これこそ広域連携で、沿線ですとタグを組んで、例えば印西はこういうものを提供します、佐倉はこういうことができます、成田はできますということをやりながら、白井にしかないものを提供できればいいなと。それから、やっぱり成田空港が大きくなれば、当然沿線にも人が来るので、みんなでやっていきましょうねと、県の知事との意見交換でも話しています。魅力ありますよねと。

白井で買い物ができない、ホテルがないではなくて、だったらホテルあるところに泊まってもらって、白井にしかないものを提供して、みんなで協力していければいいなと、そういう感じをつくっていています。

もっと言うと、つくばエクスプレスの周りも、つくばから流山から秋葉原までの沿線沿いと、北総エリア、自分たちが松戸から来て印西から成田まで、このエリアの特色って何がいかって、今はつくばエクスプレスが発展していますよね。でもポテンシャルって、うちは高いよね。成田直通だものね。彼らは秋葉原まで行かなければいけないのです。つくばエクスプレスは。これだから絶対、今は確かに彼らは結構潤ってるけど、でもトータルで考えてしまえば、この沿線ってすごいなと思っています。そこがまず、みんなで共通認識を持って、競争ではなくて何か自分たちでいいことはできるかなと。

行政面積でいうと、印西は白井の4倍の面積なのです。うちが35.489平方メートルで、印西が123平方キロメートルぐらいあるのです。約4倍じゃないですか。当然ですよ。本埜と印旛が合併しているから。そこはよく住民と議論するとき、印西は土地がある、うちはもう土地がないでしょうって。だけど探せばあるんですよ。うちはまだまだ可能性は秘めています。ですから、これ

からの運営の仕方です。このまま何もしなければ、そのまま置いていかれてしまうけれども、何か仕掛けをできれば、まだまだ豊かになりますよ。

また少し話題を戻して、教育関係で何かありますか。なければ、こういう感じで進めていきますよ。

ただ、計画も含めて、これからの子供たちの意見というものを反映していきたいし、ただ意見を聞くだけではなくて、何か取り入れることができれば、未来があると思っているので、ぜひまた素案ができた段階、計画ができる段階で、皆さんに忌憚のない意見を聞きますので、ぜひ意見を聞かせていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○事務局 ありがとうございます。本日頂きました貴重な御意見を踏まえまして、第6次総合計画、そして次期教育大綱の策定作業を進めてまいりたいと思います。

以上をもちまして、令和5年度第2回白井市総合教育会議を終了いたします。

皆様、本日はお疲れさまでした。

午後3時58分閉会